

今回の宿題「若者と話す」について、陽子さんから主旨の説明があった。世代が違うということは、みんなが思っている以上にわからないことが多いはずなのに、そこに対して無自覚であることにもっと危機感を持ってほしい、と。

自主練習会の中では、「食欲が止まらない」という会社のパート社員Aさんの言葉を、「シャッターを下ろされた」と感じたと話した。答え合わせのため、その後ランチに行って話を聞いてみると、1年位前にダイエットをして15kg近く痩せたものの、今はリバウンドしつつあること、容姿にコンプレックスがあること、でも、食べることは楽しみだからやめられないこと等がわかって、「シャッターを下ろされた」のではなく、リアルな困りごとだったことがわかった。

そして、前職は周囲にきつい人が多かったらしく、今は怒られることもなく働きやすいと話していたので、Aさんが仕事で重視しているのは、人間関係なんだということがわかった。社会人経験も少ないので、どうしたって以前働いていた環境と比較して判断することになる。そこをまず聞けば良かったなあと思った。

セッションでそれらの話をしたところ、陽子さんから問われたのは、「えみちゃんは、その子とどういう関係になりたかったの？」ということ。

たしかに今回宿題があったから、Aさんと話をしようと思ったものの、お題に出てなかったら、打ち合わせの時間を取ることも、ランチに行くこともしなかっただろう。相手がAさんでな

くても、仕事に不自由ない程度に良好な関係を築いておきたい位の気持ちだった。

これは私の思考癖でもあって、目の前に問題として表れれば行動に移せるが、理想を描いて、それに対して行動を起こしていくことが苦手だ。(悔しかったり、不足を感じた時の方がモチベーションが働きやすいのも、これに通じるものがあるかもしれない)

これはチームItoで「理想の人間関係」について話をした時に気付いたのだが、特に無形のものに関しては、その傾向にある。数字とかわかりやすいものの方が追いかけやすいのだろう。

直感的に「あれやりたい」、「これやりたい」と飛びつくことは多いので、周りからは「えみちゃんはやりたいことやってる」と思われがちだし、自分でも理想を描くのが下手だとは認識していなかった。今回のセッションの内容から、そこに着地するのかと、陽子さんの観察力には舌を巻いた。

また、「食欲」に関する話題は、若手メンバーとの面談では、定番のネタだということも教えてもらった。これは、若者と接する頻度が低いから、事実とは異なる受け取り方をしてしまったのだと思う。

世代特有の価値観、感じ方は必ずあるはずで、今回はお題がたまたま「若者」だったけど、もちろん上の世代にもあるだろう。ただ、上の世代以上に若い世代とは意識して接しないと、どんどん価値観が拾えなくなっていくってしまう。テレビは

見ないという陽子さんだが、今週の釜板特集では、「BTS」や「梨泰院クラス」の話題がすらすら語られていたので、若者の興味のあることをしっかりキャッチしているのだと感じた。自分とは異なる世代のことは、自ら拾いにいかないと、どんどん価値観が狭まってしまう。違うからこそ、その違いを面白いぐらいの気持ちで、定期的にAさんに教えてもらおうと思う。

(E.M 40代女性 埼玉県)